

各 位

2022年8月26日

会社名 株式会社パワーソリューションズ
代表者名 代表取締役社長 高橋 忠郎
(コード番号：4450 東証グロース)
問合せ先 執行役員経営企画本部長 加藤 康男
電話番号 03-6878-0284

2022年12月期第2四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

この質疑応答集は、2022年8月12日（金）に配信した個人投資家向け会社説明会および決算発表後に個人投資家様からいただいた主なご質問、ならびに決算発表後の機関投資家1 on 1 ミーティングにて、機関投資家様からいただいた主なご質問をまとめたものです。

Q1. 立会外分売を行っていますが、どのような目的で実施したのでしょうか。

現在の課題の一つである、日々の出来高が少ないことと、流動性が低いことを改善するために実施いたしました。

Q2. 今後のIR施策について教えてください。

今までは、機関投資家様や個人投資家様などさまざまな投資家様向けにIR活動を行っていましたが、弊社の時価総額からすると個人投資家様の保有割合が多いことから、今後は、機関投資家様には、従前どおりの活動を行いつつ、個人投資家様向けには、ネット証券でのオンライン決算説明会やIRフェアなどのイベント参加など、個人投資家様向けのIR活動を強化していきたいと考えております。

■ IR サイト『中期経営計画』インタビュー公開中

是非ご覧ください

<https://www.powersolutions.co.jp/ir/managementplan.html>



Q 3. 当初予算よりも大きく利益が増加していますが、理由を教えてください。

受注環境が予想よりも堅調であったことと上期に予定していた費用が下期にずれ込んだことが要因です。

具体的には、売上面では、RPA を含めた DX 市場の拡大と金融業界（資産運用セクター）の成長など、業界全体として需要が高まる中、顧客への営業強化と採用強化・パートナー推進により、多くの案件を獲得できました。これにより、サービス別の業績では、システムインテグレーション、RPA 関連サービスおよびインフラエンジニアリングが予想を上回ることとなりました。

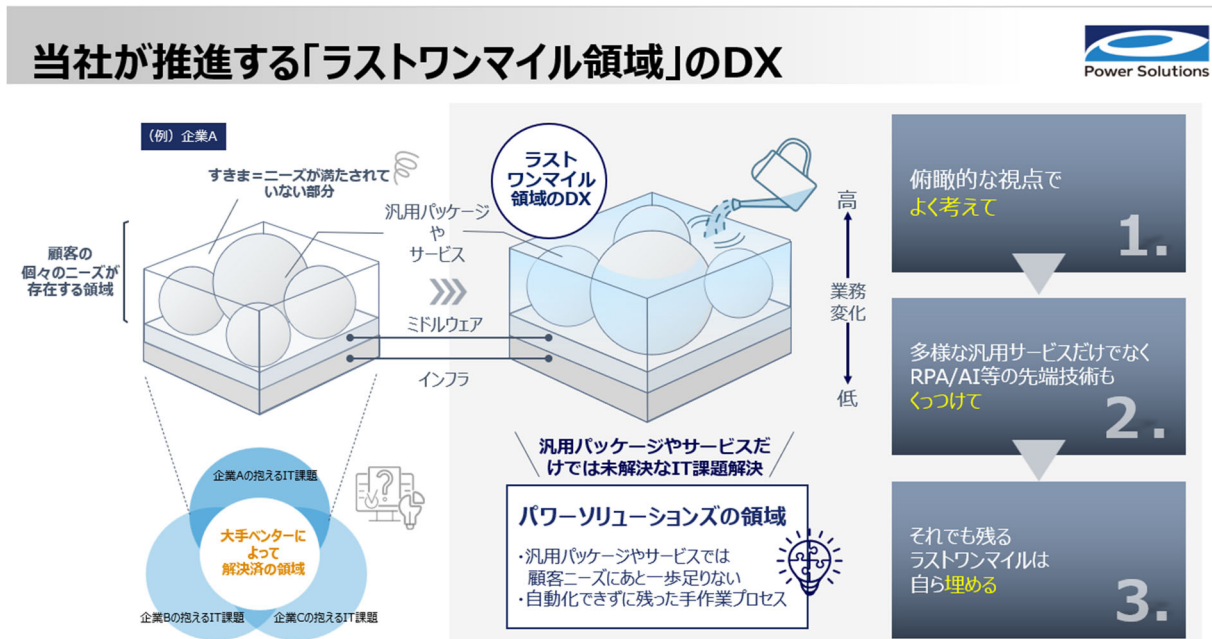
利益面では、売上が増加したことによる利益増加と上期に予定していた研究開発費、採用教育費、情報システム費が下期にずれ込んだことにより、営業利益、経常利益、当期純利益が予想を上回ることとなりました。

Q 4. 通期の業績予想を上方修正されましたが、上期の利益に対して、下期の利益が少ない理由は、利益を保守的にみているのでしょうか。

通期利益では、2022 年 12 月期の修正後の業績予想は、売上高 53 億円と当初予想から +5.9% 増、経常利益は 4.5 億円と当初予想から +13.4% 増を見込んでいます。

売上の増加に伴い、売上総利益額は下期にかけて増加する見込みですが、下期においては、中期経営計画でもご説明した通り、研究開発費、採用教育費、情報システム費などの成長投資を確実に実行することで、上期よりも利益が少なくなる見通しであるためです。

Q 5. 金融業界向け IT のラストワンマイルの具体的なイメージが湧きませんので、教えてください。



ラストワンマイルについてですが、B toB の IT ビジネスでするのでご理解いただくのは難しい状況ではあるかと思えます。上記の図を見ていただきますとわかるとおり、企業 A のビジネスの内容にインフラ、ミドルウェアがあり、その上に大手の IT ベンダーが提供されている汎用パッケージがあります。この汎用パッケージはどの企業でも共通して使えるソフトウェアのため、個々の会社様からの個別ニーズを満たすにはあと一歩足りないという IT 課題が多く残っているところ。そこをラストワンマイルと定義しています。

上記図のように隙間の空いている、ニーズが満たされていない部分（ラストワンマイル）を埋めるということを弊社のビジネスで行っており、大手の IT ベンダー様が提供している汎用パッケージやサービスだけでは解決できない各社固有の未解決の IT 課題を解決しています。この解決力が弊社の強みの一つです。

Q 6. RPA 関連サービスにおいて貴社の優位性について教えてください。

弊社は UiPath 社のダイヤモンドパートナー（弊社を含め国内では 8 社※2022 年 1 月現在）であり、そこも弊社の優位性となっていると考えています。ライセンス販売だけでなく、テクニカルサポートやトレーニングサービスも提供しており、2022 年 4 月には新規のお客様を最多数獲得したパートナーに贈られる「Best New Customer Acquisition」を受賞しました。

Q 7. RPA とはどのようなもので、RPA を導入することで貴社の顧客はどういったメリットが得られますか。

RPA とはロボティック・プロセス・オートメーションの略称で、ロボットで業務プロセスを自動化するというものです。ロボットといってもアームのようなもので何かを動かすようなものではなく、PC 中にあるソフトウェアロボットのことを言います。

例えば汎用パッケージを使っているお客様では、A というシステムの中のデータを B というシステムの中に転記する作業があり、そこを手作業でやられていたとすれば、その部分を RPA で自動化するということができます。これによって作業の効率化ができ、人材を最適配置することもできます。

Q 8. 貴社の受注面でのリスクについて教えてください。

外部環境で説明した通り、DX 市場が伸びていること、貯蓄から投資へという風潮もある中で金融業界である資産運用業界の成長性が高いという説明をさせていただきましたが、このような外部環境が変化した場合、弊社事業のリスクとなると思います。

Q 9. コロナ禍における直近の受注状況について教えてください。

2020 年はコロナ影響により売上と利益が減少しましたが、2020 年秋ごろから 2021 年 3 月ごろまでに徐々に回復し、2021 年 4 月以降については、コロナの影響はなく、現在は、コロナ前を上回る売上となっております。

Q10. IT 人材の採用は難しいと思います。離職率はどのような状況ですか。

離職率は IT 業界平均（10~15%）と比較すると、今年 1-7 月の累計実績では、4.8%と低く推移しています。

どの企業においても、IT 人材の採用は難しい状況であるかと思います。特に中途採用は苦戦している状況にあります。しかしながら、厳しい状況でも、元々エンジニアであった主婦の方の採用などにも力を入れており、人員数拡大に向けて動いています。また、弊社では新卒採用に加え、他業種からの若手未経験者の採用にも力をいれております。

Q11. 昨年1社 M&A しましたが、今後の方向性を教えてください。

今年の2月に発表した中期経営計画でお示した通り、今後もサービスの幅の拡大や人材獲得を目的として、M&Aを実施してまいります。

Q12. 今後、配当を出す予定はございますか。

現時点では配当を実施するかは未定ですが、株主還元や株価対策という意味では、重要なことですので、しっかりと検討していきたいと考えております。

Q13. 取締役等に対する譲渡制限付株式報酬（RS）を発行していますが、譲渡制限解除とは何を指すのでしょうか。

RSは付与時点における株式の売買を契約で制限しており、譲渡制限解除とは契約の制限が解除され実際に株式を売買できる状態になることを指します。

Q14. 今回新しく取締役に設定したRSの譲渡制限解除条件について教えてください。

RSについての費用を織り込んだ利益が、中計3年の経常利益額合計を達成した場合かつ、退任しないと譲渡制限は解除されないものとなっております。

Q15. 取締役から執行役員になった方のRSの譲渡制限は解除されるかについて教えてください。

執行役員を退任するまでは、譲渡制限は継続されます。